

# 遺跡まつり通信3

発行 8月5日  
酒生まつり推進協議会

## 猛暑の中での準備作業

猛暑が続く中、去る7月21日に第21回酒生遺跡まつりが開催され、スタッフと多くの参加者に恵まれて、盛況のうちに無事終了することが出来ました。



準備は当日の朝8時から。ステージ用のトラックが既に運び込まれている。集まったのは公民館をはじめ、多数の関係者。まずは、小学校からお借りしたテント10張りの設置と椅子テーブルの移動だ。前日に引いた白ラインに沿ってテントを設置する。テントやテーブルはそれなりの重量があり大変なのだが、集まった人数が多いので助かる。祭りを開催するには膨大な備品が必要であり、その設置には多くの人の労力が必要であるというのを実感する。

## 五重の塔復活に向けて

今回の新企画として、二つの五重塔の復元がある。立体的なものは準備が大変だ。越前町から取り寄せたロープライト、ネット、木材、針金などを組み合わせて本体を作る。当初、体育館の中で製作予定だったが、出入り口から搬出が出来ないということで、急ぎよ南校舎下へ変更。



ネットを6枚組み合わせ、針金で五重の塔の

輪郭を作る。それに、本体のロープライトを組み付けて接続した。試しに電源を入れるが何と片方しか灯らない。あれこれ試行錯誤で何とか回復。出来上がった塔を壁に取り付ける作業がこれまた大変だ。3名が屋上に上がり、組み立てた5重の塔を慎重に引き上げた。天辺の相輪部分やネットの固定には独自の創意工夫がされている。

## 工夫を凝らした屋台村

屋台村は午後3時からのオープンだ。今年は、新しく店を出すJA婦人部をはじめ14店舗が店を競い合った。毎年のことながら、屋台は準備や運営には大変な労力がかかっている。

工夫を凝らした食物やゲーム

には各団体の気持ちが届いている。所狭しと並んだテントはこれが夏祭りという賑やかさがあり、大人を含め参加した子供たちはこの暑気な心を楽しんでいる様子だった。



### オープニングセレモニー

太陽が少し傾き、暑さが少し収まってきた17時から、ステージにて開会式が行われた。トラックの荷台を利用したステージであるが、飾り付けがけっこう大変だったようだ。



司会者はいつも元気で明るい五十嵐さん。第4回目から司会をお願いしているのですが、もう10数年の大ベテランになる。スタッフ以上に遺跡まつりをご存じで、この方なら何が起きても安心して任せていられる。



祝辞を朗読。お暑い中のご公務どうもありがとうございます。その後は、地元の堀江市会議員のご挨拶。短いひとことでしたが逆に心に残った方も多かったでしょう。

会長、自治会連合会長のあいさつの後は、来賓として市長代理で見えられた玉村総務部長が

### エネルギーシユな北野竜神太鼓



出し物として最初に演じられたのは篠尾町の北野竜神太鼓。夕日に照らされた演者たちが力一杯たたく太鼓の音は会場一杯に響き渡り、古代古墳が眠る成願寺

山の頂上まで届いていたことでしょう。

練習していた沢山の子供たちも時代と共に数が減り、今では数えるほどになったとお聞きする。ぜひとも、酒生の子供たちにこの伝統ある竜神太鼓を受け継がれていくことを切に思う次第だ。



### あさひこども園の幼児太鼓

今年も出演のあさひこども園の子供たち。出

てもらったのは20数名の5歳児たち。園では一番の年

長児で、多くは来年度の4月に酒生小学校へ入学されることでしょう。



青い法被を着たグループと赤いベストを着たグループに分かれて太鼓や踊りを披露しましたが、ここまで演じるまでの準備は大変だったことでしょう。園の担当された保母さんや保護者の方には心からご慰労を申し上げます。

### やぐらを囲んで

やはり夏には盆踊りは欠かせませんね。今年も稲津町を中心に活動するグループに参加いただき、賑やかな踊りとなった。イッチョライ節や炭鉾節などおなじみの曲の他、酒生オリジナルのキラリン節が踊られた。キラリン節は酒生の名所や由来などを歌詞に織り込んだ酒生地区独自の曲だ。貴重な楽曲ですのもっと地区民

に知っていただき、愛されてほしい曲だ。

### 話題のマリンバ演奏

そして、今話題のマリンバ演奏になる。ご主人のウクレレと合わせてレレクションというグループ



名で活動中。演奏者の平岡さんは何年か前の植樹祭では天皇陛下の前で演奏された

たほどの腕前で、ハーモニーホールなどの演奏会にも数多く出演。

ただ、屋外はマリンバの演奏には不向きで、直射日光や温度変化は、繊細な楽器であるマリンバには厳しいそうです。今回は、何とかお願いして演奏していただけることになりました。また、

落ち着いた曲や懐かしい曲などが披露され、会場の皆さんは珍しいマリンバの音色に魅了さ

れていた。使われているマリンバは「こうろぎ社」。製造元は何と福井県の越前町にあり、国内シェア2位を誇っている。その製品は世界でも高い評価を受けているとのことだ。

### 厳かに灯火行列

酒生の火は篠尾町の礎石跡地にて点火される。

ここは飛鳥から奈良にかけて生江氏が関係したであろう寺と5重の塔が建立されていた場所である。この地にて、マイ切り



式の火起こし器を使って火種



をつくり、それが酒生の火として遺跡まつり会場まで運ばれる。成願寺町のふれあい会館を中継地点として、ここから副会長さんや女神、そして酒生の火を入れた大あんどん神輿。自前の衣装を

まとった梅野町と稲津町の合計40名あまりの参加者が、行列を組んで会場まで行進した。

まとった衣装は、梅野町と稲津町が合同で製作したもので、赤を基調として、いかにも古代の装束的な雰囲気がある。限られた製作費の中で、よく考えられたもので完成度は高い。

### 「この街で」と共に

灯火行列はレレクションによる「この街で」の演奏とともに入場した。この曲は、「この街で生れ、この街で育ち、この街であなたと一緒にお爺ちゃんになりたい…」という歌詞で、ふるさと賛歌の歌である。松山市にて公募された詩に「千の風になつて」の作曲家新井満氏により曲を付けられたものである。



当初、光るブレレットとハミングにて行列を迎えるつもりであったが、初めてのこともあり思ったような入場にはならなかった。

とはいえ、衣装をまとった灯火行列の入場は厳かで、素晴らしいものであった。



一斉に聖火台に点火された。

そして、立体5重の塔への電源が入られた。その瞬間、暗い夜空を背景に、南校舎の壁面に取り付けられた5重の塔が明るく輝いた。会場からは「ウオー」という歓声が上がリ、酒生の火はクライマックスを迎えた。

校庭に描かれた地上5重の塔は、朝倉遺跡も万灯夜に勝るとも劣らぬ厳かなで優雅な雰囲気醸し出し、酒生の火を運ぶ行列を暖かく見守ってくれたようだ。



大あんどんによつて運ばれた酒生の火は副会長、会長、自治会連合会長とトーチからトーチへと受け継がれ、自治会長全員に移された酒生の火は、



美と躍動のよさこいイッツヨライ  
酒生の火  
点火のあとは、咲恋う組によるよさこいイッツヨライの演舞である。子供を交えた女性陣に

よるエネルギー溢る踊りである。毎年、福井まつりに参加されているが、酒生の遺跡まつりにも毎回出演してもらっている。切れ味の鋭い衣装とか踊りの振りは、まるで古代に天照大神の前で踊った踊り子を連想させるもので、この遺跡まつりのフィナーレを飾るにふさわしいものであった。学校の屋上から撮られた画像には、西の空の夕焼けと地上の5重の塔、それに、このヨサコイの踊り手が絶妙のバランスで写し込まれていた。

### 感動のうちに

最後はお楽しみみの抽選会は、出来るだけ多く



の人に商品が当たるようにと4等30本を追加し、いつもの様ににぎやかに終わることが出来た。  
ナイアガラ花火は今年の予定になかったが協賛社のご厚意により2年ぶりの復活となった。

今年の遺跡まつりはスタート時点で手間取ったこともあり準備が遅れがちになりましたが、終わってみれば何とか形になったかなと思っています。企画段階、準備や当日の作業、後始末など沢山の人の皆様のご尽力によって、無事にまつりを終



了するところが出来ました。  
この場を借りまして心から感謝の言葉を申し上げます。  
(山形)